

# 交通輸送技術検討会（第7回）

## 議事要旨

日時：令和元年10月16日（水） 14：00～15：30

会場：晴海トリトンスクエア Y 棟 18 階 Tokyo 会議室

### 1. 開会

### 2. 議事に関する主な意見等

#### （1）試行の検証について

- 交通事故の発生状況について、前年と比較し、追突事故は減少しているが、その他の事故は増加しているものもある。事故の発生場所や、渋滞解消による走行環境変化の影響によるものかについて、分析すべき。
- 事故により発生した渋滞があったのか。その渋滞がORNに影響していたのかを確認した方が良い。
- 大企業に従業員当たりの取組人数を上げるをお願いをする際は、具体的な数値目標を示した方が良い。

#### （2）首都高速道路の料金施策について

- 料金上乘せ範囲について、利用者に理解してもらうためには、ナビゲーションシステムやWEBでのルート案内で情報を提供できると良い。
- どれぐらい交通需要を下げようとしているのか具体的に記載し、目標とした交通状況を実現するために料金施策の導入が必要であることを明確に伝えるようにすべき。
- 試行の結果、首都高の交通量の減少が想定より少なく、大会を成功させるためには大会関係車両が走る首都高の交通量をより抑える必要があるため、首都高の昼間の料金を上げて、夜間の料金を下げるといふ追加施策が必要ということを整理してきたところ。そのため、昼間の料金上乘せによる増収分で料金システム改修や夜間割引による減収を補填し、収支均衡を図る方針であることと、1,000円上乘せの根拠をきちんと説明すべき。

#### （3）交通マネジメントに関する提言について

- TSMのレギュラー時の対応について、交通状況に応じて高度に管理できるよう柔軟で機動的に対応するという表現にした方がよい。
- 【公共交通に関するTDMの推進】の中で、「重点取組地区をグループ化し、特性に応じた取組を更に推進する」とあるが、取組の目安となる目標値を明確にした方がよい。
- 30%削減の目標について、物流量そのものを30%削減すると物資の供給に影響が出ることになるため、輸送時間帯を夜間にずらすことは有効な手段と考えており、どの時間帯へのシフトが効果的であるか関係者で共有しながら、連携して物流TDMを進めていきたい。
- 昼間から夜間にシフトした交通も、目標である30%削減に含めるようにした方がよい。

- 「交通と輸送の関係」は、「3.東京 2020 大会の輸送を安全・円滑に行うための基本的な考え方」に含めるべきではなく、新たな項目として別建てすべき。
- 「非常時における鉄道事業者との各種連絡体制の確立」の表現について、鉄道事業者も交通マネジメントの主体の一つであり、鉄道事業者間の情報交換や道路管理者・交通管理者・空港関係者等、関係者の適切な情報共有とユーザーへの提供が重要である。

(4) 交通輸送技術検討会に係わる今後のスケジュール（案）

意見なし

(5) その他

意見なし

3. 閉 会

以 上